



七種

七種やおハ又ハ川 精崎名 青湖

あくらや雪うづ 播んづ 粥の音 甲石田 箔戸

七種や一 笈ふ 砧の音くらセガ 玉牙

七種や 嬉しき 暮れ 花見くら 希北

春遠く ぼろや 子の七 瀬川 里角

あくらや 音ふ 一くら 子き 分り 川越 雙鯉

七種や 地を 歌うと 雪井を 甲八幡 春鱗

一 ぬきハ瓜子 跡も下 暮 子 春 峨

す 高ろも 移葉も 暮れ 暮る 利久 甲迄見

梅

風 移り 梅り 暮る 下 陸子 越 五牙

朽る 此 咲き あり 暮れ 梅り 可調 甲八段

暮る 魚と 夕光 一 一 鹿の 梅 下葉

暮る 雲の 見も 暮る 下 梅り 交柳 甲三

梅 香も 暮る 一 園や 清見 寺 輝雄

一 暮る 花の 清き 如 信 濃 島 丘 旭

香の 暮り 下 跡の 清あり 梅り 下 利久 迄見

垣 隣 孤あり 暮れ 梅乃 白ひ ぎ 錐 光

む 欠 咲や 暮れ 人 付る 師の 道 希 兆

魚 暮り 一 吹き 暮る 一 師 希 兆

雪 消る 文の 明り 下 窓乃 梅 和 風 甲吉田

梅り 下 復し 初る 妹り 窓 琴 和 甲府

春雪

消るもありに降る 春の香 東志

是も又去来とやいえと春乃雪 漁柳

弱と死て拂ふ 春乃雪 燕羨

信保姫の夕錦 春乃雪 川越 濟茂

散るのよしと詠ふ 春乃雪 八坂 可調

春乃の心かきや 春乃雪 甲府 蓮調

退屈乃よきよ 春乃雪 卜風

待るも 春乃雪 燕羨

春乃の心かきや 春乃雪の傍に咲 川越 双鯉

中々咲ぬ 春乃雪 惜舟

解やとて花の春乃雪 希妃

余は月よふ 春乃雪 里角

傘のさるも 春乃雪 石田 箔戸

吾人乃 春乃雪 思科 李仙

春乃の心かきや 春乃雪 徐来

春乃の心かきや 春乃雪 龜文

古原に 見たりと けりとも 花梅香 蓬川 琳々

水に 渡を かくるも 梅を 春の 雪 蕙志

涅槃

祢と 衣中 梅も ひく 旌 凡の 衣 廿 篝調

松明と 岨 塚の 葉 雲や 涅槃の 日 抱魚

右 横と 見せし 後や 祢と 人 像 甲 卜 凡

祢と 衣中 かくるも 梅も 花子の 丁 志 李由

涅槃 衣中 着て 明日 岨 塚の 寺 甲 八 塚 立雲

徑 師 堂の 長 具 参り 涅槃 像 松花

祢と 衣中 や 山の 筈 にも 雲 渡 是 川 越 双 經

散り 梅も 衣中 祢と 人 衣 廿 嘉 曲

涅槃 衣中 や 衣中 衣 法を 啼く 衣 花 曉

祢と 衣中 や 雪も 消え 衣中 衣 水 秀 菽

苗代

苗代 や 衣中 綿 葉も 衣中 衣 燧 輝 雄

うしほ戸 苗代 幸き志賀のま 石田 竹垣戸

あーらやまのあめ氷 龍皇 八幡 九鼻

苗代や素氷 沼ある田子の磯 東志

苗代や鱧も 時の田もとり 女 嘉曲

あふらや 大磯 浦雪

あふらや 甲府 燕女

苗代や氷も 雪ふる富士の 八幡 春嶽

はらあ 蛙 生りり 苗代田 蕙美

あーらや氷のぬるも きのふ 扇 峨

苗代の鱧も 鱈も 氷乃上 曉谷

蝶

いば 甲府 蕙女

あや 川 双鯉

蝶 度 庭

あ 寺子 英朝

あ 蕙 里

糸物のとら〜
八坂 喜鐘

花子よむ 意とあ〜り
小除カ 蕙菴甲府

草塚の花も 蝶の 満カ 蕙洲

葉のむ乃白き 海カ 下カ 紫

七時カ ぬしきつ 人も 胡蝶カ 花紅

藤原の 胡蝶の 着カ 多カ 狹カ 吐月

急カ 下カ いていカ 小除カ 九カ 阜

歌急と 端カ 一カ 一カ 多カ 胡蝶カ 岷江

四阿と 通カ ぬけカ 小カ 小カ 泰塚

人の日と 遠カ 一カ 花カ 胡蝶カ 丘旭

志カ 志カ 松の 巾カ 胡蝶カ 蕙志

曲水

曲多や 空カ も 月カ の 小カ 五カ 雲八坂

如カ 水カ 一カ 唐カ 有カ 棋カ 局カ 水カ 花紅

きくを 以カ せ 花カ 一カ 碎カ 水カ の 大カ 花洲

曲水ア上へ流るる、
曲水ヤ山ノ隈ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事
曲水ヤ夕日ノ影ト流ル事

魚柳

卷耳

抱負

万壽

岷江

桃丁

有象

草

蘇の根子咲きゆりる
三秀
九鼻
五雲
危洲
扇嶽
龜文
可倒

甲府

沿るも河川の一の邊をよむるや其料 惜舟
川當ら唐りか葉や二程も 泰峰

永日

夕るよ不二思る 接の日永也 亀文
織仕也 接りり也 日何一也 眞里
是教也 永き日を知る 唐もさ 甲府 壺童
連徒もあつた 日の国峰 可南 輝雄
永きりやさるもさ 終る 必ふ一山 可明

永き日や春より高き牛の鞍 米洲
あつた日や紀の園守乃弓御工 甲府 壺童
長き日や沖へお拂ふ 翁り 泉布
永日や雉の命もも眼子 五尾 八坂 蝶雪
夕のきりり 氣もあふ坂や車牛 九鼻
うつり川 跡をわき 日西後 里角
絶りの長くたつる日 永うか 遊魚
永き日乃文も千のさるのこも 莚 蕙

春とて暫多見たり人春の春 蕙志

牡丹

建早花と兼乃らんが 甲府 卜風

枝も花も菊も押さる 牡丹が 里曉

散るまの事揃ふはらんが 松花

投入り花乃寝るわくはるが 八幡 寸虫

四阿子奥ある庭やぬるま 岷江

芍薬十日瀧りて 牡丹うら 吐月

一見の牡丹し寝る 菫うら 吉田 和風

壺ハ春き衣しハまの牡丹が 米洲

咲日く熱日とせしむらんが 蕙英

初鱈

初うけを多かハ詠子屋きりり 甲府 蕙女

二月月の村や物らん初うけ 女 下紫

鮎あしハ馬の心程とる社急 寺子 英朝

初結りし邦の心乃雪の下 甲府 調志

川中初雪ありけり初雪 九 琴和

辰もと初雪帽子ぬき川初結 東 礎

雪もちり春人見あはれかつ 川 松雪

喜丹りあはれかたき 川 履仁

雪簾の波もあやと川松急 花 紅

實櫻

実さるや雪を歌りし 此山 岷江

実梅の笠子うりし 秋 乃雪 丘 旭

之ちりや片枝よきの雨さし 右 桑

名を漢る麻の兒もさる の 実 葦 洲

雪教後乃 キ や 信 乃 我 の 実 春 岷

けり 実 の 結 乃 結 梅 輝 雄

花に実子 結 乃 之 の 此 乃 結 梅 皷 文

雪と見 一 の 此 の 雨 や た 乃 之 の 之 甲 府 百 丈

実さるや 一 の 結 乃 寺 石 田 第 戸

実さくしん又持子思ふるさくしん
地急

こはくしん夢を吹かて
伊豆
女
嘉曲

みさくしん下海
東車

実操下嘉しん
真里

実さくしん花も飛ぶ奥の院
吉田
初所

こさくしん雲のり糸ハ雨乃
危測

実操下いとく荒
志賀此里
杏英

みさくしん能く
茶店の跡
雅光

実さくしんえよき
玉穀
蕉志

菖蒲

水と田一引
吹不阿やめ
吟月

みさくしん見の庵
新菖蒲
東序

後馬の
紀乃
造見
利久

荆人乃
石田
以久

志さくしん茶の
八階
可謂

拾得て水の輪多下茶あやめ 雲

ささる水のさめぬとありし阿やろ中 拾車

秋葉一能つまきし人 菖蒲草 扇峰

一日に新葉へるや阿やろ草 吟和

紫日のあも徳水合阿やめが 壺竜

深き江も咲と阿やろの標る 蕙草

小系女の裾濡る日下あやめ刈 丘雲

伸上る響ハ尺の音蒲のぬ 蕙一

櫛と海をききハちん茶あやめ 秀馬

池をよほるも阿やろ花菖蒲 嘉曲

蚊遺

男と一なる 團扇をきふ阿やろ也 惜舟

病も是れぬ阿やろと云く 拾得て 雲仙

信菖も焚く扇陰のかやろぬ 丘雲

夕燈はくさるの里乃 轆車可南 丘旭

老川に星はるん乃 阿やろが 志虹

松中火下月ハ後ハ去候リ 扇塚

姑のいぬハおとろくか中り哉 杉原

小舟文ハ産ぬ茶乃指ハ転急 李英

あの日ハ燗持ハふらぐうぬ 可調

雪ハ文ハ芳妙の里乃転急哉 和山

火車替妻子ハ侍ハか中りハ白 亀文

長雨のまじりハ下ぬハなり哉 赤礎

ちや火や産の備ハ吹送ハと 希兆

夏ハそ始城乃茶とハか中りハうか 甲府 蕙女

言即茶乃下ハ雪見ハ転急哉 春峰

鞍中火や多縁縁ハ替はらり 赤谷

若竹

若井ヤ千と世の肌を鏡らめ 甲府 壺中庵

去身又ハハ雪乃あ多縁やと手竹 里角

川のくけや終ハぬるよあハハハ 八坂 春嶽

若井ヤ雨ハ何とあハハハハ 五雲

凡の日と雪乃海印あり一舟 里月 拍翠

皮ハ竹乃去身と中りんと身生 蕉志

富士詣

時をぬらうもうあり不二詣 泰塚

羞ふも人思ふハききい海あり 甲府 惜舟

葉の味も釜の雪解如富士詣 甲府 毒中夜

在ハなるとあま〜 甲府 や不二詣 玉牙

雪と春と雲踏ハ川ぬ〜 甲府 程旭

若葉も草子上〜 甲府 不二 下葉

水音も浪衣と化〜 延見 ぬ不二詣 利久

屋も消る音風言〜 甲府 富士詣 雙磬

雪消〜 海〜 甲府 浮川ぬ〜詣 遊子

雪蓋も上思る 残也不二詣 危洲

心太

玉と解る美も 里月 玉英

四一子一 庵一 節中 ところてん 臣丁

雲出 子 鱒ある 水戸 小を 川 雙鯉

玉川 乃 末も 米 節 雲 居る 雲 石田 竹戸

残り 承 乃 米 室 ところてん 心太 里角

松尾 子 居る 雲 くりり ところてん 度 赤

雲 ぬく 料 の 風味 中 小を 八幡 五雲

雲 とも 化さぬり 雲 や ところてん 魚文

撫子

通 ところてん や 撫子 雲 小 赤 の 鷗 廿 聖志

あそ 子 や 度 の お 小 の 音 か 是 洲

撫子 も 小 細 拵 の 森 乃 雲 輝 雄

あそ 子 や 撫子 乃 袖 子 雲 雲 度 赤

あそ 子 や 撫子 乃 熱 乃 雲 雲 有 桑

撫子 中 雲 小 乳 あり 雲 松 乃 雲 甲 調志

撫子 乃 雲 雲 一 雲 小 乃 雲 廿 舞 調

あそ 子 や 撫子 乃 雲 乃 垣 の 赤 花 毛

松子や松く 松はもはる水 松花

こころ川の流るる母の情あが 玉子

あふる子や恋せけるもさきさき 柳子

常夏の念あふる川も松花 文柳

松子やうらまへも松花の娘 蕙志

玉柳

松花やうらまへのあふるも 八坂 蝶雪

松花や花とをる人のさき花 柳子

松花や花とをる人のさき花 蕙洲

松花や蓮も花のとらせ 李仙

松花や又むきひも花のさき 里角

松花や又むきひも花のさき 抱龜

松花も花とをる人のさき 逸見 利久

松花も花とをる人のさき 寺子 英朝

松花も花とをる人のさき 小紫地 松花

松崎の三條素麴し 遠糸 輝旌
 玉柳の枝世乃 若結と云 青く
 古葉も 寄添ふや たる満つり 有桑
 たる柳の 佛系りの 穂亦が 蓮調 甲府
 蓮の穂の 花より 別れく 玉糸 蕙女
 貝柳の 叶より 蓮より 瓜茄子 正原谷 蕙一
 遠柳の 葉を 糶乃 約迄 春峨

初嵐

雲の散るも 花の散る 初あし 蕙女
 柳の波末の 葉乃 柳の 初嵐 己醉
 白蕙の 影の ぬくき 花より 完 琴志 女
 松柳の 葉より 寄添ふや 初あし 蕙女 馬月
 みるも 木の 葉の ぬくき 花より 完 玉牙
 日暮も や 見ぬ 白川の 初あし 蕙女
 山姥の 葉より 寄添ふや 初嵐 蕙女 女
 とちも 花の 吹ふて 春川 蕙女 蕙調

下野の山に之空の都あり 甲府 臺中夜

白川や柳を過るる川岸 五友

初より中よきるるに河に可測

聖

刺見の先詰りきりきり 都采

流るる水や下部の織筵 川越 濟美

園のおりおるるや 里月 所瀬

懐粹をくや 甲府 五友

綿あり か 嘉曲

きりきり 秀馬

ひきき 石田 路戸

まじり 讀み

ある傍の 志

ハ朝

ハ 八坂 振子

ハ 八坂 孤月

八朝戸 袴巻く〜 霜の葉 川越 濟美

八朝戸 了し 初雪也 霜 霜 吉田 和風

八朝戸 初穂 袴く 道初秋 霜 吉田 秀天

八朝戸 初穂 袴く 霜の白 吉田 菊寿

八朝戸 田面の厂を 交すく 下紫

初 又 咲く 紫月の 初日也 輝雄

野菊

嫁 菊より 妙多て 伝達す 如雲也 吉田 照仙

聖の末や 九日と 菊のおく 咲 庭 庭

子乃 欲の 袴く 中尾を 初菊也 岷江

枯草乃 穂と 若や 染子 初菊く 式 甲府 調志

赤雲の 小文よ 初菊や 小紫也 霜 霜

挿む 菊と 道初 紫の 野菊也 下 風

杖笠も 赤雲す 小紫の 紫く 家 石田 箔戸

他り人の ありて 紫く 霜 紫也 八幡 紫桂

空 紫秋の 埃し 紫く 野紫く 帆路

紫山子

管を吹く中へ一響くか八坂一寸虫

八景の田子ふりよき紫山子川越厨長

禁乃山子弓はくわ八坂春鱗

雨乃子弓はくわサ車櫓

意あぬ筆も少せはめ紫山子石田笛戸

追及も弓と弦よのか輝輝

去身の田と楯春春縁

鹿中かー見せは夕孝子英朝

風折々傳へる紫山子春達川珠

柳まの多海丸丸か丸丸訓

紫山子丸丸か丸丸訓

この筆も傳はぬ丸丸丸訓

國よか一人郵丸丸紫山子丸丸志

推

新む木の舟も浅きや推の雨 甲府 蓮峯
 推の室や知信庵の 舟乃き 甲府 蓮峯
 志ぬれをと捨ひのりるや 位山 八幡 蝶雪
 幼子の多し推のまや五川 女 翠志
 宇治橋下指や 近き推りも 甲府 點仙
 推の室は俵いり鬼一 峯のき 甲府 蓮洞
 推少くて古人より 峯の別 五葉谷 花一
 推乃室や木の下 居乃玉あり 井 赤曲

后月

舟の火神は丸一 十二 八幡 寸法
 雪と入甲 變り根き 後の月 甲府 洞志
 眼の休む月と 周あり 后の 表達川 洞
 松陰より 舟も多し 舟の 扇塚
 岐を原より 此 周や 十 玉牙
 障子越 松も 峯より 十 女 志虹
 更科より 伯母の 舟 後の月 井 戸

樓のあもも多秋下 後の月 八階 立雲
連ねし之明打しむ戸下後の月 女 卷耳
秋文くもくもるお下後の月 女 東指
草も筆かゝむけて後の月 女 輝雄
西影も雪やとまきし後の月 危洲

紅葉

夏限り子の海灯あふるもみ志 甲府 輝雄
花に奥あふるも幸りし紅葉うさ 甲府 可剛

山の名に旭しりり下夕とみち 八階 里角
紅葉がけ深ぬいあしり 八階 窓旭
似くもあふるも迷りぬ紅葉が 八階 古川
秋の火試む雨下むるもあ 八階 三秀
秋よりやしむのさし紅葉が 八階 蕙英
あふ秋の園ととも下枝紅葉 八階 素風
山姥の裾を深る中夕とみち 川紙 履仁
南楼より月し後るもあ 甲府 紅葉 甲府 洞志

吉室と新中ぬりての御宗が 甲府 志提

高きと八木舟かたあつちみちが 石田 以久

後山子照る中御宗の天下一 八幡 孤月

あしきくくくくく 井 菊洞

取くあをきくくく 井 蕙志

時雨

後山一松山の夕一 井 都米

下傘と又むくく 女 下紫

涼く曇の秋もいとふ 社 旭

凡の追ふ雲乃よと 甲府 常夜

むくくく日と 五月 李仙

ひくくく松の 拍 翠

引舟の芦火 妻 美

新藁乃 惜 舟

笠松や 岷 江

波はとらり 時多しや 傘乃縁 廿 赤檜

深あり又 木の葉より 志く水 八 赤曲

澤あり 志水より 八瀬あり 八 老車

白川の岸を 湯より 志く 遠見 利久

湯より 志く 船の 時多し 廿 玉牙

火桶

さすりく 志く 火桶 廿 有桑

志く 井筒より 志く 火桶 廿 東礎

智のくち 考り 火桶 廿 亀文

一系ちる 志く 火桶 廿 下葉

老らく 此紙子 火桶 廿 赤檜

拱く 志く 火桶 八 可調

枕より 志く 火桶 廿 志旭

相火桶 あく 志く 火桶 廿 箱戸

抱き 志く 火桶 廿 玉牙

守り 志く 火桶 廿 輝雄

掛菜

朝川越子石田 何箱戸の後ゆ其ら笑 干菜龜文

三越八幡路利久や肉利久菜利久の利久二利久る利久 菜利久後利久 箱戸利久

梅利久菜利久と利久迎利久も利久朝利久の利久何利久も利久ハ利久 其笑利久

梅利久菜利久と利久本利久の利久菜利久も利久掛菜利久ハ利久 龜文利久

生利久菜利久と利久は利久く利久ハ利久 掛菜利久ハ利久 龜利久ハ利久 利久利久

多利久梅利久と利久う利久ハ利久菜利久と利久古利久き利久何利久ハ利久ハ利久 龜志利久

顔見世

う利久ら利久と利久セ利久ヤ利久小利久き利久る利久り利久 ち利久ら利久も利久え利久 龜文利久

白利久え利久せ利久の利久り利久何利久も利久え利久 難利久保利久厚利久 可利久測利久

顔利久見利久セ利久ヤ利久都利久少利久り利久う利久ら利久何利久も利久え利久 壽利久夜利久

う利久ら利久と利久セ利久ヤ利久お利久ハ利久志利久ら利久く利久何利久も利久え利久 双利久鯉利久

白利久見利久セ利久ヤ利久何利久も利久え利久 難利久保利久厚利久 可利久測利久

う利久ら利久と利久セ利久ヤ利久お利久ハ利久志利久ら利久く利久何利久も利久え利久 玉利久牙利久

顔利久見利久セ利久ヤ利久何利久も利久え利久 難利久保利久厚利久 可利久測利久

顔之世中たのびく暮れ山を度く

輝雄

魚之世中一舟を以て一室の掛

篝燭女

夢指

夢指中低くを多しる供与り

都米

あゝ深しと刻しと哀志く夢聖が

下紫サ

夢指や夢山字もろと流あたり

寸虫ハ

夢指の去りぬ中夢乃 昨夜

里角

夢指し杖をきき ねんころ

蕙英

夢指中まきかす神の 身取り

志軒女

夢指し村長り身も 移師が

輝雄

夢指や夢志ぬ神の 影あり

一無雲谷

多かりや雪をも 流く松の下

急則

氷

漣もかくつゝをきき 氷の那

一無雲谷

夢指を以てしとむ 歩が

立友甲府

夢指乃 氷を 熱くしるりし

春縁

日の輝ト分リ、西ある 沙汰 急洲
 雪ノ水ノ木の葉 漸き 氷ノ分 石田 帆雪
 水椰子茶乃とくりや 岸が 八坂 其矢
 ありきく 柳と開る 氷をな 夾鎌
 筆をたて 石の氷より 柳氷 蝶雪
 水多結より 松のぬ 沙の那 蕙洲
 ありきく 此なき 海多あり 珠が 蕙志

寒竹

寒竹中より 若川の 赤紫より 石田 笛戸
 筆や高き 乳厚し きのくち 赤塚
 寒舟や 松も 流る 焼か 又 井 三巻
 うん竹や 淵の 所より 子若と 姑 八坂 菫耳
 寒竹や とき 井 かき 井 多 井 かに 井 吟如

藻喰

生珠白 友多水 とき 井 とき 井 藻 蕙原

適々甲府 米焚里ヤ五友

奥深く茶管 薪折る春峰

管々岷江 ぬ月加減の茶

昔老の瑞々 隣子仕立 茶茶

煤掃

一日の茶 苦い飲も あり煤掃 茶茶

煤掃ヤ一 志山 あり山

古く東 亦車 たり身 の腰 のま 志志

正々下 たり見 是ま く身 乃奥 彦彦 友友

煤掃ヤま 用の 何る 古曆 玉牙

亦後 乃迂 之ま も何 り煤 々心 五友

煤々 亦如 屏凡 の頂 上一 姉妹 輝雄

亦々 何如 ヤ茶 一追 々々 以久

す々 亦如 極亦 も神 の高 彦彦 止曉

麻々 亦々 茶竹 一一 掃三 秀秀

雪の 庭惜 一ま あり如 煤々 一一 東車

神柳の煖をあるーの柳ひく
 煖くはや 曆ぬく川と右尾 薫志
 煖くはや 己の煖あふるの子 煖志

天明三卯春開板

書肆 星運堂

葡萄菴誹書目録

雪れ	燕志集	よのひ	燕志判言 其二撰 煖流撰
継穂梅 全	同二編 全	其手紙	愚連中
月の海 金川連中	不引橋	異世奇仙 月次句合高良 長拊集	蝶河集
同二篇 全	同三へん 全	よのひ	煖二 燕流
同三へん 全	ハ川も少々	雪の花	長拊集
五奇仙 青義撰	松乃	全	

書目録

矢立双六 一日先行 莫流集

清書卷 自註 莫志

梅の使 長柑撰

深舟四編 莫流

けのる道 全

同 五二 全

松の枝 全

同 六編 全

指 千勺 附孫案勺文章 莫志選

草の曙 長柑

初子の日 長柑集

柵乃香 全

若草舟 全

松花箱 全

谷の葉 日光山紀行 莫志

訓語圖 燕志

岸乃松 社中

袖若菜 全

千と包の調 全



